

# 今夏の需給見通しについて

平成23年 6月 9日

九州電力株式会社



## 今夏の需給見通しについて

- 玄海原子力2・3号機、川内原子力1号機が停止している間は、この代替りの火力発電所で使用する燃料の追加調達を行うとともに、火力発電所の補修調整等の供給力確保のための対策を実施しております。
- 燃料の追加調達については、これまで石油換算で約100万klの燃料の確定ができ、8月上旬までの供給力は確保できる見通しとなりました。  
以降の燃料調達についても最大限努力してまいります。

### 【これまでに実施した対策】

対 策		内 容
燃料面	石油・LNGの追加調達	4～8月の追加調達量：石油換算約100万kl (必要な追加調達量の約6割)
	石炭火力発電量の増	自社・他社石炭火力を利用率ほぼ100%まで活用
設備面 他	自社・他社火力の補修調整	定期点検の工程短縮、補修の取り止め・繰り延べ等を実施
	他社火力の受電増	受電パターン変更（夜間のフル受電等）による受電増
	他電力会社からの応援融通の受電	余力のある他電力会社から応援融通の受電
	その他電力取引の活用	電力取引市場を活用した電力調達

## 今夏の需給見通しについて

- 必要な燃料が調達できたとしても、玄海原子力2・3号機、川内原子力1号機が停止したままでは、夏季ピーク時に供給予備率が3.5%まで低下します。

なお、猛暑となった昨年夏の最も高い最大電力に対しては、供給予備率は更に低下し、1.6%となります。

これは、夏場の高気温による電力需要の急増や電力供給設備の故障発生時には需給バランスが崩れる恐れがあります。

### 【今夏（8月）の供給力】

